

第39回 獣医学特別セミナー

「Feline cerebral dysgenesis: What can we learn from shaky cats?」

演者：渡邊 理恵 先生, DVM

Department of Pathobiology, College of Veterinary Medicine
Auburn University (USA)

日時：5月24日（木）17時00分より

場所：iCOVER 1階101（形態構造学実習室）

1990年代、Auburn UniversityのScott-Ritchey Research center内の実験猫コロニーで、後肢の震え症状を示す猫たちが現れ始めました。震える猫たちは、少し攻撃性が強く、中にはてんかん様症状を示す個体がいましたが、ほとんどの猫では日常生活には特に支障なく、中には10歳を超えて生き、子孫を残した猫もいました。ほとんどの個体には深刻な大脳異形成が認められたにも関わらず、です。25年後、次世代シーケンシング技術の発達により、この症状が単一遺伝子の変異によるものであることが明らかになりました。本セミナーでは、大脳異形成猫の病理学的所見をご紹介した後、原因遺伝子として同定されたPEA15という蛋白質について、これまでに発表された知見と、私たちの研究室で得られたデータをもとに、猫の大脳皮質の正常な形成を支える仕組みについて考察します。また、後半では時間が許す限りアメリカの獣医学部の日常について、お話しする予定です。

連絡先： 渋谷 周作（5900）、岩田 祐之（5899）